

「オオマテイ山」

2011年5月14日（土曜）

レポート by 熊本、高橋雄

4月の生藤山ハイク時に駅で「小菅村の巨樹を巡る」のパンフレットを見て、更にこの時期はニリンソウの群生も見られるとのことでの企画した。今回の参加者は川島さん、雄さん、熊本の3名

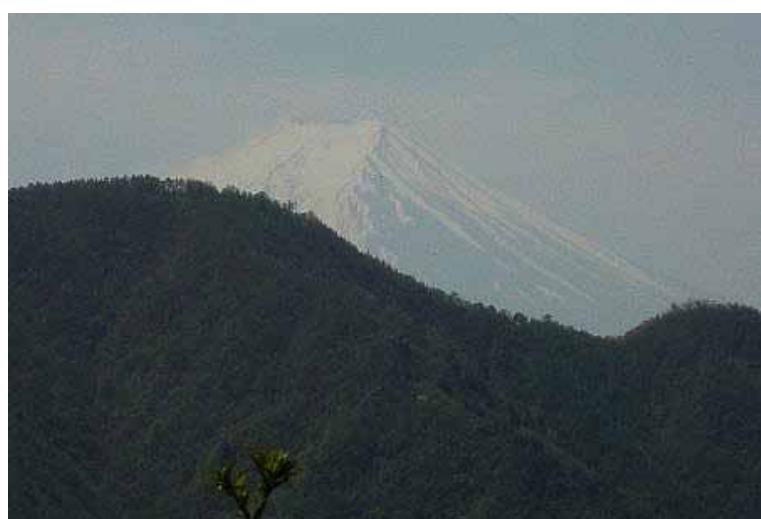


上野原駅では「松姫峠」へのバスに並ぶ長蛇の列。

8:28 発のバスに乗り込む。

結局増便もでた盛況さである。

途中の鶴峠(850m)で殆どのハイカーは下り、奈良倉山(1,349m)に登る人たちである。



我々は、小菅の湯を経由して約1時間50分バスに乗り、終点の

「松姫峠」につく。

幸いにも松姫峠(1250m)からは富士山が見られた。

トイレも常設されている。

「松姫峠」とは美しい名前だが、

武田信玄の息女松姫が、八王子に逃げ延びる時に越えた峠とのことで、名付けられたそうである。



10:30 身支度をして登山口で写真を撮りスタートする。

大菩薩峠への道である。



新緑が美しい



枯れ葉が堆積した登山道はフカフカして気持ちよく膝、腰に負担がこない。



20分程、平坦な道を歩くと、分岐には真新しい標識があり、二輪草コースを取る。



ニリンソウ



ニリンソウの群生地は鹿の食害から守るために網で囲われており、この下の谷に向かって群生していたようだが、認識しないで通り過ぎてしまった。



参考写真

2008年5月6日の両神山のニリンソウの群生



檜の樹林帯から、ブナ、ミズナラ、
クリの樹林帯へと変わった。
ところどころに巣箱がかけられていた。



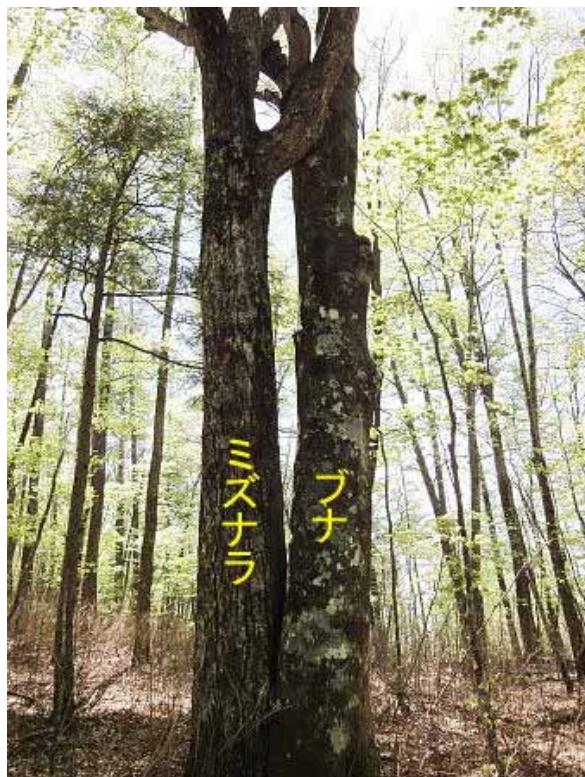
巨樹の枯れた後がアチラ、コチラに見られた。



更に大菩薩峠方向に向かって進む。



ミズナラの巨樹



ミズナラとブナが根元と上方の枝で合体していました。



雄さんは鳥の巣箱を覗いて小鳥がいないか確認。巣箱は途中 20 個以上はあったと思うが、どれにも小鳥はいなかった。
わざわざ巣箱をかけなくとも、古木の穴があちこちにあるので、必要ないので？



いよいよ最後のオオマテイ山頂への登りへの分岐。

山頂への道と巻き道の大ダワ方面の道が
わかりにくく、我々は巻き道の方へ進んで
しまった。



暑くなり T シャツ一枚になる



ヘビイチゴの花



巻き道の途中に山頂へ登る分岐の標識があり、そこから山頂をめざす。
山頂を目前にひと登り。
殆ど人に会わず静かな山登りである。



登り始めて約1時間で、11:30に
1409mのオオマテイ山山頂に到着



暖かい陽射しを浴び、さわやかな新緑の下で、
ワインで乾杯し昼食とする。
30分昼食休憩して下山に入る。
下山は「小菅の湯」まで標高差700mの下り
である。



ミツバツツジの群生があり、満開～まだ蕾状態と
日当たりによってマイマチ。



スミレ



遠く見える尾根は雲取山であろうか？



山頂から 30 分程下ると、トチの巨木が現れた。

推定樹齢 600 年で幹周り 7.25m の太さがある。

写真の人物との対比でその大きさが分かる。



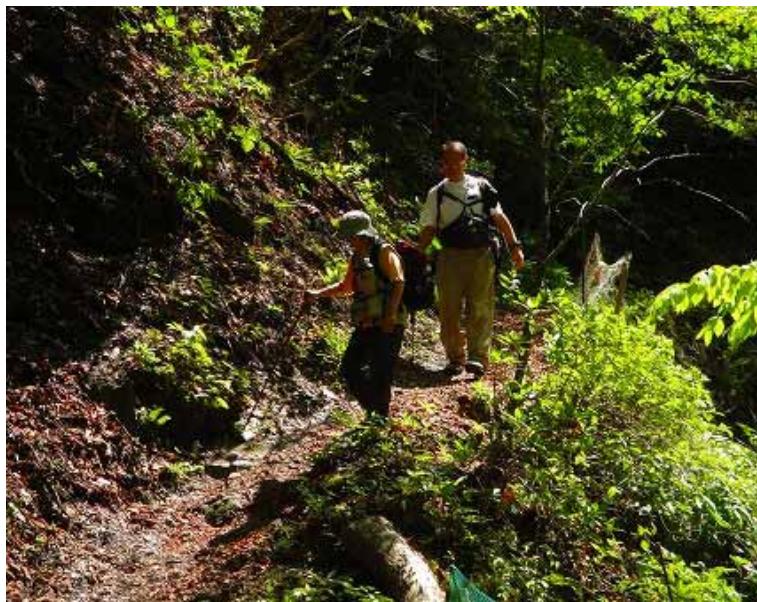
トチの巨木から 20 分程、急斜面を淡々と下ると尾根両側の沢が迫りその沢に沿って下るようになる。



沢の清流を利用した「ワサビ田」が現れる。



ワサビの花



更に沢に沿って下る



ウシハコベ



沢沿いの登山道を下りきると、舗装された林道
にてた (13:25)



小菅の湯への最後の登り



小菅の湯に 13:55 着

高アルカリ性の単純泉 (PH 9.4)



温泉は「ツルツル」と言うより、
「ヌルヌル」と言った方が良いかもしない。
露天風呂にユックリ浸かったあとは勿論、生ビ
ールで乾杯。物産館でワラビなどの山菜を調達
し、15:20のバスで上野原駅へ。
バスの乗車時間は1時間半ぐらい。我々は最後
部の座席に座り、酒宴で時間を過ごした。

本日は多摩源流の奥深く余り人に出会わない静かな尾根ハイキングで、ブナ、ミズナラ、トチなどの原生樹林の巨木があった。

次回は

6月3日・4日で一泊の新潟「八海山」と「尾瀬が原」のバスツアーです。